

## 第3回関東 MIST(Minimally Invasive spine Stabilization)研究会が 開催されました

2014年9月20日、帝国ホテル（東京）において第3回関東 MIST 研究会が慶應義塾大学整形外科 石井賢会長のもと開催されました。本研究会は低侵襲脊椎手術の一分野の位置づけで提唱された最小侵襲脊椎安定術（Minimally Invasive spine Stabilization : MIST [ミスト]）の手術手技の安全な普及のために情報共有をしていこうと発足した会の日本 MIST 研究会の関東支部会で、今回で3回目になります。MIST 手技は MIS-transforaminal lumbar interbody fusion (TLIF)、MIS-long fixation/fusion、cortical bone trajectory (CBT)、extreme lateral interbody fusion (XLIF)/Oblique lateral inter-body fusion (OLIF)、balloon kyphoplasty (BKP)/vertebral body stenting (VBS)、X-stop など多くの低侵襲手術手技を含みます。今までにない学閥を超えた“オールジャパン”をコンセプトにオープンな若手医師を中心とした集まりで、毎回活発な討論が繰り広げられています。

参加者は脊椎外科医師 107 名と関係者で計 200 名にのぼり、大盛況のうちに開催されました。発表内容は厳しい査読から選出された一般演題 10 演題で BKP から XLIF に至るまで多岐にわたり、いずれも素晴らしい内容でディスカッションも活発に行われ、非常に密度の濃いものでした。また、講演 I として JA 愛知厚生連江南厚生病院脊椎脊髄センター長 金村徳相先生をお招きし、ご講演を賜りました。XLIF 手技の基礎から応用までを数多くの症例とともにご紹介頂き、Lateral Access Fusion 手技の今後の益々の発展を確信いたしました。さらに特別講演 II として、山梨大学大学院医学工学総合研究部整形外科学講座 波呂浩孝教授をお招きし、ご講演を賜りました。骨粗鬆症患者に対する治療戦略から先生が最も力を注いでおられる腰椎椎間板ヘルニアに対する MMP-7 を用いた究極の低侵襲治療に至るまでご紹介頂き、今後の腰椎椎間板ヘルニア治療の大きな革命を予感いたしました。

研究会の最後では、会期中の質問・討議の内容を勘案して授与される Best Discussor Award および Best Paper Award が発表されました。Best Discussor Award は幾度となく鋭い質問をされた済生会横浜市東部病院整形外科の福田健太郎先生が受賞され、Best Paper Award は東京都済生会中央病院整形外科の森下緑先生が受賞されました。驚くべき事に森下先生は専修医 1 年目で、次世代の脊椎外科医師の 1 人として益々の活躍が期待されます。

本研究会には新たな知見を日本から世界へ発信するという MIST 手技に関する多施設研究グループとしての役割があります。今回、本研究会の参加者の熱意溢れる討論を目の当たりにし、今後本研究会から脊椎脊髄外科領域における世界への情報発信による国際貢献を確信致しました。最後になりましたが、本研究会の趣旨にご賛同いただきました多くの

先生方と企業様に深く御礼申し上げます。

文責 塩野雄太



参加医師による集合写真。



関東 MIST 研究会世話人 12 名の集合写真。



第3回 MISt 研究会 石井賢会長の熱いあいさつ。



教育的目的から若手医師2名とベテラン医師1名による3名座長制を導入。



白熱する議論。一触即発！



Best Discusser Award 福田健太郎先生。



Best Paper Award 森下緑先生。